

自己評価及び外部評価票

【 事業所概要(事業所記入) 】

事業所番号	2070200411		
法人名	医療法人心泉会		
事業所名	グループホームローズガーデン		
所在地	松本市大字中山7494-8		
自己評価作成日	令和 4年 2月 5日	評価結果市町村受理日	令和 4年 5月 9日

※事業所の基本情報は、長野県介護サービス情報公表システムで閲覧してください(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/20/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2070200411-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【 評価機関概要(評価機関記入) 】

評価機関名	有限会社エフワイエル
所在地	松本市蟻ヶ崎台24-3
訪問調査日	令和 4年 3月28日

【 事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入) 】

介護老人保健施設の併設型のグループホームとしてのメリットを最大限に活かし医療面においても事業所の協力病院のバックアップ体制による安心機能。
グループホームの理念である温かく思いやりのある家庭的な雰囲気の中で毎日笑顔で過ごしご利用者様の体調管理及び怪我の無いように努めています。

【 外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入) 】

グループホームローズガーデンは、併設施設との強力な連携体制が構築されていることでの安心感と、グループホームだけでは難しい数々の行事や催し物への参加、コロナ禍で中止の場合もあるが地域の高齢者と交流ができるローズカフェでの楽しみなど、利用者、家族の満足度は高い。
ホームの職員も全体での各種研修や各委員会のメンバーとなることで、質も高まっている。
今求められている意思決定支援の一環として、リビング・ウィル(生前の意思)にて、事前に本人に意思表示・自己決定をしてもらう取り組み、本人の記録として一日の様子、身体的状態、ケアプランに対するサービス提供等が誰もが一目で分かる様式(温度版)の作成など、常に積極的な姿勢がみられ、次はどんな新しい取り組みが始まるのかと期待をしてしまう事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します。ユニットが複数ある場合は、ユニットごとに作成してください。

ユニット名()		項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 20)	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている。 (11, 12)	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない				

自己評価及び外部評価票

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	家庭的な雰囲気の中で毎日笑顔で過ごす様に体調管理にも気を付け接する事を心掛けている。	コロナ禍で制限はあるものの、温かく思いやりのある家庭的な雰囲気作り、毎日笑顔で過ごす、体調管理及び怪我のないよう努めますとの、三つの理念を常に意識した、具体的な実践が日々行われている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	以前はそば祭りやひろば喫茶などにも出かけ地域の方々と交流をしていましたが、コロナ禍で行事等も中止になったり外部との接触が出来ないため、日常的に交流する事が出来ない。	法人と地域との関係は良好で、老健施設と共同で地域の方に向けての催し物が日常的に行われていたが、コロナ禍における困難さを感じる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	法人でローズカフェを開催し、認知症予防体操などを行い喜ばれている姿も見られるので地域貢献への取り組みとして行う事が出来ていると思うが、感染対策として中止になってしまうこともある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、その意見をサービス向上に活かしている。	コロナ禍の状況で推進会議が施設内だけで会議を行っているため、外部の方の参加が出来ていないが、グループホーム便りにて行事や勉強会などの会議内容は書面にて報告してグループホームの様子を知っていただいている。	定期的な運営推進会議ではホームの事業計画や報告の他、外部評価結果やホーム内部での課題なども行政・地域の各関係者を交えて話し合われていたが、長いコロナ禍において困難となっている。 そのため、任期2年の各委員と顔を合わせる機会もなく、アンケート調査などの実施も始まる模様である。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	地域ケア会議にて地域の方々からも意見を聞きたかったのですが、会議も中止になってしまい話を聞くことが出来なかったが、どの地区でも、会議や行事が中止になってしまっている様子。	コロナ禍におけるグループホームの実践は、ホームの力量を図るスケールといえる。 警戒レベルの上昇で行政がしり込みする現状で、活動の幅が狭まっているのは残念である。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	やりがい検討会等で学びの場を得てそれを踏まえ対応している。独歩で転倒の危険性の高い利用者様もいるが見守りや職員同士のコミュニケーションを密に行うことによって拘束することなく対応している。	身体拘束排除宣言の下に全職員が研修で十分な理解と周知の徹底を図り、人権を尊重した対応と自由な暮らしを支援している。 また、制度改正に伴う、年2回の身体拘束排除等の法人内での研修計画も検討されている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	やりがい検討会等で学びの場を得たりしており、それらを踏まえ利用者様の訴えには真摯に向き合い職員同士理解を深めて利用者様に寄り添ったケアを行うよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	職員は成年後見制度への研修会や資料にて理解ができています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約に関しては、事務相談員が行うようになっているが、内容や疑問等があった場合は対応し説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご家族の面会時や電話等で現状を伝えると共に、要望等も聞けるようにしている。	コロナ禍での新たな取り組みとして、家族へのお便りに文章や写真等を今まで以上に多くし、本人の様子がより分かるように工夫している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	併設施設との定例会議やグループホームでのミーティングにて意見を聞きながら検討している。	施設全体会議、ホーム会議で職員の意見・気づき、管理者からの提案で、サービスの質の向上に繋がっており、各種取り組みは組織的である。 また、その内容からは人財意識とその育成の注力を感じる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	人事評価制度やストレスチェックの導入にて向上心を持ち、職場環境の形成ができていと思う。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人の方針として個人のスキルアップのための研修会や各種資格取得への応援態勢をとっている。施設内研修も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	今の状況では交流する事ができないが、長野県の同業者のネットワークには加盟しているので情報提供してもらっている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	利用者様と十分に話しをする機会を作り、どのように生活していきたいのかお聞きし、できるだけ希望に沿える様に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)		外部評価(評価機関記入)	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居の際には、ご家族様とも十分な話し合いを行い、一緒にグループホームでの生活についてご本人の希望や不安等検討している。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	利用者様やご家族様との話し合いを細目に行い、その都度対応ができる様に努めている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	談話の時間を設け、コミュニケーションをとりながら、生活していく中で洗濯たたみ、お膳拭き等、家事仕事等を一緒に良い関係が築けていると思う。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族とのコミュニケーションも大事にし、常に同じ立場でご本人の事を共に考えられる様心掛けている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	買い物等はできないが感染対策をしながら、ドライブなどは出かけている。面会等も窓越しやオンラインを使いながら行っている。		職員は利用者の思いや暮らし方に合わせてサービスを提供する、柔軟な支援に努めているものの、コロナ禍における困難さを感じる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	一人ひとりの個性や性格を大切にし、利用者同志のトラブルに配慮しながら協調していく関係作りができる様に努めている。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退去された後でも、必要に応じて相談や助言を行っている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者様の希望や意向など十分に傾聴し、ご家族様等と連携、協力を図りながら対応に努めている。		共に過ごす日々の生活場面や家族からの情報を下に、希望・意向の把握をして、その人らしい暮らしを支援している。 利用者の意思決定支援についても、長い実践の蓄積を感じる。	

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご家族様や利用者様との会話の中から、これまでの生活についての情報が把握できる様努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	バイタルチェック等を行いながら日々の様子を観察し、現状の把握を職員全員ができるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	他部署等以前の様子を知っている方からの情報やご家族様からの意見も取り入れてスタッフ会議等で話し合い、スタッフ全員で介護計画を作成している。	本人がどのように暮らしていきたいかを下に、関係職種を含めた会議で計画を作成し、家族に分かり易く説明し、モニタリング・カンファレンス・見直しも、定期的・状況に応じて随時実施している。 見直しの際は、NMスケール(精神状態尺度)・長谷川式スケール(知能評価)・ADSL評価(機能的評価)を実施するなど、本人の現在に合う計画となるように取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	利用者様に普段と違った様子等があった際はお昼のカンファレンスの時間を利用し話し合いを行い、温度版にも変化(特変時等)の記入を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	リハビリや栄養課等より助言をもらい、個別のニーズに対応できるように工夫をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	ボランティアなど地域の方との交流ができないため、施設内での行事等を楽しんでいる。地域の福祉広場等参加許可が出れば出かきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	受診を要する際はご本人及びご家族へ状況を説明しご意向、ご希望を伺いながら適切な医療機関を受診していただいている。受診の結果やその後の経過についても連絡し連携をとっている。	受診の際はミーティングで本人の症状や経過について全職員で話し合い、利用者受診票に記載し、主治医に適切な指示をあおぐように図っている。 受診結果について診療・処置内容及び指示表にて、医師からの情報を全職員が共有すると共に、家族に報告している。 また、併設施設の看護職員が毎日ホームへ来ての助言、変化の際は早急な対応が出来る環境など、母体が医療機関であることで、本人、家族にとって何よりの安心、信頼となっている。	

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	併設の老健看護師とは連携をとり、毎日様子を見に来ていただき、異常時、急変時の対応や状況に応じた適切な指示や処置を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力病院とは連携をとっており、カンファレンス等で情報交換を行う事でドクターやナースとの協働もできている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	リビングウィルを用いてご家族様、ご本人のご希望をお聞きし、書面にて保管している。職員もいつでも確認できるように温度版へ記載し情報共有している。	新たにリビング・ウィル(生前の意思)の取り組みを始めている。 本人の自己決定を大切にし、重度化した場合等、再度リビング・ウィルの確認をして、本人の希望にそった支援となるように職員が一丸となり支えている。 リビング・ウィルの取り組みは、本人、家族の納得や安心を得ると共に、職員の共通の心構えとなっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	併設施設の看護師のサポートが速やかに行われる事になっている。救急救命の勉強会を行ったり、看護師より点滴についての勉強会も行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	定期的な避難訓練と緊急時のフローチャート等を活用し全職員が対応できるようにしている。停電時のための自家発電も取り入れている。	定期的な避難訓練と共に、高齢者施設での火災事故事例研修を実施し、火災の基礎知識や訓練を学んでいる。 有事の際の併設施設との協力体制は職員にとって力強い利点となっている。	避難訓練は法人全体で実施しており、グループホーム独自で行うことで問題点や課題が更に明らかになると思われる。 また、火災訓練だけでなく、想定される災害(地震等)についての訓練も期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	利用者様一人ひとりの訴えに耳を傾け、あからさまに否定をしたり押し付けたりせず、できる限り意に添えるようコミュニケーションをとり、理解できるように努めている。	個人の尊重はリビング・ウィルの取り組みや、本人の気持ちを大切にした自己決定への支援、また、昔の得意だった事、好きな事を把握して個別レクとして行う等、本人の意思や希望に沿った生活を第一としている。 尊厳に基づいた丁寧な言葉づかいやプライバシーに配慮した声掛けなど、職員の意識の高さが感じられる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	利用者様の意見や希望を職員が把握し、一人ひとりに合わせた声掛けをする事で自己決定ができる様働きかけている。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	利用者様の日常生活での希望や利用者様のペースを優先して行っている。 野菜作りをしている人も多く、プランターではミニトマトやきゅうりを植え、水やりをして成長を楽しみ、収穫しました。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	一緒に洋服を選び自分の好きな物を着ておしゃれを楽しんでいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	行事食により季節の料理やおやつを楽しみ、メニューの説明も行い、一人ひとりの食事形態にも注意している。食後にはお盆を拭いてもらったり一緒に片付けも行っている。	食事は併設施設での調理を活用し、白飯だけはホームで炊いている。 月一回の行事食、または特別食については、お品書きを膳に用意し、その由来について記す等、楽しみな時間となる工夫、体重減少がみられる利用者については栄養士とも話し合いがなされている。 食中毒、食事嚥下についての研修で職員の意識を高める取り組み、毎年の利用者嗜好調査の実施で利用者の声を活かす取り組み、また、本人が食べたい品(既製の類)を家族に知らせ、差し入れてもらう等の柔軟な対応もみられる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事量がわかりやすいように主食とおかずに分け、10段階で毎食チェックを行っている。 水分も摂取しやすい時間に提供したりしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後口腔ケアを行えている。 状態に合わせてブラシやスポンジ等道具を変え、物品の準備のみしてお声かけをしたり、ケアを行ったりと援助している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	尿量や時間帯を職員で共有し、時間によってパットの大きさを変えたりトイレ誘導を行っている。	2つの居室に1ヶ所のトイレと共同トイレを設置し、待つことなく使用できる環境が保たれている。 行きたい時にトイレに行けるこの環境と、訴えがままならない利用者には排泄パターンに応じたさりげない誘導で、快適な排泄となるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	カスピ海ヨーグルトの提供や水分摂取を促し、便秘の予防に努めている。下剤も一人ひとり調整させていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている。	一般浴対応困難にてグループホーム外の協力を得て入浴されている利用者様もあり職員体制上、入浴日は決めさせていただいているが、拒否が強くあったり体調変化に応じて職員間でも連携を図り変更をする等、臨機応変に対応している。	入浴が楽しみな時間となるように、本人の希望や安全確保を重視している。自分で出来る部分は自身で行ってもらい、力の発揮となるように心掛けている。不安や状態に合わせて、回転椅子使用や2人体制での支援で負担の少ない入浴方法と、難しい利用者には併施設でのリフト浴、機械浴を利用している。ローズガーデンの名の通り、ベランダに咲いているバラを利用したバラ風呂も実施している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	個々の状況に応じて時間通りに行動していただくのではなく無理強いくことなくご本人の気持ちを尊重している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	皆が確認できるよう温度版への記載を行っている。各自薬情に目を通し新しい薬を内服した後は様子を記録に残し医師へ報告もしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	老健行事に参加し、歌や踊り、演奏等も楽しまれている。ご家族様にも協力いただき、ご本人が食べたいものなど持ってきていただいたり、散歩に出て気分転換が図れるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している。	コロナ禍で外出支援は難しいため、グループホームの周りでお花見やバラを楽しんでいる。	以前は外出支援に力を入れ取り組んでいたが、自粛のため近くへの散歩や野菜作り等で楽しみや気分転換となるよう支援している。また、併施設での数々の行事や催し物に参加することで、他施設利用者との交流が図られている。	集団での外出が難しい現状のなか、どうすれば利用者の満足度を高められるかの検討は必要と思われる。本人の行きたい場所や希望を把握して、一人ひとりに添った個別の支援は必要で、家族に代わっての実行を期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	自ら買い物をしたい人はご家族様にお願いしてお金を所持しており職員も一緒に管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご家族様からの電話をご本人に取り次いだり、耳の遠い方に対しては間に入ってお話ができるよう援助している。年賀状や手紙のやり取りも行っている。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ベッドの配置や柵の種類を変え、居室の温度設定や寝具等も個々の状態に合わせている。 共有スペースには季節に応じた壁飾り等をご利用者様と共にレクリエーションとして制作し、飾っている。	外出が困難ななか、ホームで季節が感じられるように壁飾りを利用者と作りフロアに飾ったり、行事に合わせてひな飾りなども置いている。 特に今は感染症対策として定期的に窓を開けての換気や消毒の徹底を実施している。皆で集まるフロアと明るい日差しの談話スペースがあることで、利用者一人ひとりが好きな時間に好きな場所で過ごすことができる空間となっている。 その談話スペースには、地元小学校の記念誌や行政の広報、童話なども置かれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	談話室等、何ヶ所かにイスやテーブルを置いてあり、自由に過ごせる様にしてある。自分の好きな場所でゆっくり過ごす事ができている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご家族に協力していただき、以前使用していたなじみのある物や写真等を持って来ていただき、自分の居場所となるように工夫している。	その人らしい居室となるように、本人、家族と共に考え取り組んでいる。 本人のお気に入りの物、馴染の寝具、家族写真、また、季節が分かる作品をレク時間に作り居室に飾っている。 職員は居室とはプライベート空間と意識して勝手に入室しない等、礼儀をもって対応している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	施設内はスペースが広く、歩行訓練やリハビリを行なう事が容易です。見守りを徹底し、安全には最大限の配慮をし、自由に生活していただいている。		